

第 3 回専門委員会における指摘事項について  
(最終処分場関係)

【廃棄物最終処分場の放流水等に係る実態調査について】

指摘事項・意見	対応
<p>① VOC 処理技術としてのばっ気処理に関しては、廃棄物最終処分場のみでなく排水規制とも関連しており、別の議論とすべきではないか。</p> <p>(中杉委員)</p>	<p>調査結果からは好気性処理工程の前後で 1,4-ジオキサン濃度の減少が見られます。</p> <p>1,4-ジオキサンの処理技術に関しては、排水規制等専門委員会においても議論されているところであり、その議論との整合も必要と考えています。</p>
<p>② 物質収支で、1,4-ジオキサンの汚泥への移行率は考慮されているのか。</p> <p>(小野委員、松藤(敏)委員)</p>	<p>調査では、参考として、排水処理工程で発生する脱水汚泥について、1,4-ジオキサンの溶出試験を行っていますが、いずれも検出下限値未満でした。</p> <p>別紙 1 に示すとおり、物質収支において汚泥への移行はないと考えられます。</p>
<p>③ 1,4-ジオキサンのマスバランスの再検討に当たっては、ばっ気による大気への揮散量が最大でどの程度なのかも検討すべきである。</p> <p>(佐々木委員)</p>	<p>調査結果について、別紙 1 のとおり大気への揮散量も含めて推計しました。</p>
<p>④ 生物処理工程で、1,4-ジオキサンが減少していない施設もあるのではないか。</p> <p>(益永委員)</p>	<p>全般的には、1,4-ジオキサン濃度について、生物処理工程の前後での減少傾向が見られますが、御指摘のとおり減少の見られない施設もあります。</p>
<p>⑤ 1,4-ジオキサンについて、結果として濃度が下がったというのではなく、下がらない理由を考察することが重要である。</p> <p>(中杉委員)</p>	<p>別紙 2 のとおり調査結果を再整理しましたが、処理工程の違い等との関連は認められませんでした。</p>

【論点整理について】

指摘事項・意見	対応
<p>① 最終処分場の放流水等の 1,4-ジオキサン濃度について、経年的な変化を示したデータはないか。</p> <p>(松藤(康)委員)</p>	<p>最終処分場の放流水から 1,4-ジオキサンが検出された事例について、別紙3のとおり経年的な濃度変化を示しました。</p>
<p>② 最終処分場の構造と基準との整合性は、他の規制項目にも関連することであり、考え方について整理しておいた方が良いのではないか。</p> <p>(酒井委員長)</p>	<p>管理型最終処分場の放流水の基準項目と、安定型最終処分場の浸透水の基準項目について、別紙4のとおり現在の考え方を整理しました。</p>
<p>③ 塩化ビニルモノマーについて、安定型処分場の浸透水としての基準値は設定するが、管理型処分場の放流水としての基準値は設定しないというのは違和感がある。</p> <p>(松藤(敏)委員)</p>	<p>公共用水域において塩化ビニルモノマーが高濃度で検出された事例はないこと、実態調査において管理型最終処分場の浸出水及び放流水からはほとんど検出されていないことから、管理型最終処分場の放流水の基準としては設定しない方向で検討したいと考えます。</p>